

【先-5】 上野原市広域防災・交流拠点整備における官民連携手法導入検討調査 (対象箇所:山梨県上野原市)

【実施主体】上野原市

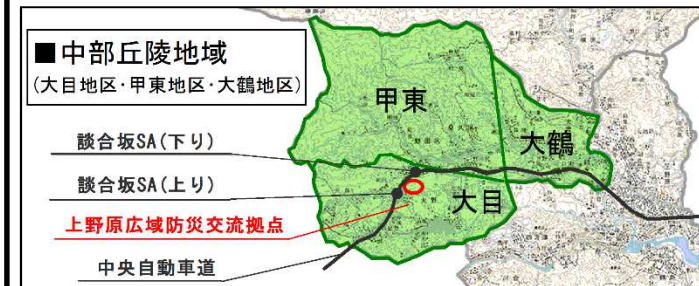
平成27年度

調査目的・これまでの経緯

- ・本事業は、上野原市中部丘陵地域に整備予定の「談合坂スマート・インターチェンジ(SIC)」に隣接した地域に、「広域防災・交流拠点」を整備し、地域の魅力向上及び防災力向上を図ることを目的とするものである。
- ・本調査は、防災拠点型道の駅を中心としたエリアの整備にあたり、積極的な官民連携手法の活用を図るため、公募型マーケットサウンディングによる事業初期段階からの民間活力の取り込みを目的とする。
 - 平成25年 談合坂SIC事業化決定(平成29年供用開始予定)
 - 平成26年 上野原市都市計画マスタープラン策定
「スマートインターチェンジを活用した交流拠点形成」

施設の概要

■開業予定の談合坂SICに隣接した約10haのエリア



調査結果

- 1. 上野原市広域防災・交流拠点の一体的な整備運営のあり方の検討**
広域的な地域の特性を把握し、拠点のあり方を検討、整備予定地に求められる機能を整理し、ホームページ上での公開募集、現地説明会によるマーケットサウンディング(MS)を実施したところ、次のような調査結果が得られた。
 - ・市内外から多分野の事業者の関心を受け、多くの事業者から提案を受けることができた。
 - ・事業の初期段階におけるMSであったことにより個別事業の提案から地域全体の構想まで幅広い内容の提案を受けることができ、事業の推進に寄与するものとなった。
- 2. 官民連携による事業手法の検討**
MSを基に、自然と共存できる施設整備を行う開発形態にて、官民の役割分担を整理し事業手法を検討したところ、次の調査結果となった。
 - ・収益性のある事業との一体的な事業化により、適切な官民のリスク分担の実現が可能。
 - ・今後も継続的に民間事業者の意見を取り入れながら、事業手法を検討することが有効。
- 3. 一体的なエリアマネジメント手法の検討**
防災拠点における一体的なエリアマネジメント手法等について検討したところ、次のような調査結果となった。
 - ・災害時の対応を事前に考慮した協定内容を検討した上であれば、エリアマネジメント手法の導入可能性がある。

◇MSの実施の公表(市ホームページ上)

【1】上野原市広域防災・交流拠点整備事業(一次案)の概要書

- ①事業の目的
- ②エリア概要
 - ・整備予定地及び周辺の概要
 - ・公共施設の概要
- ③導入が期待される機能のイメージ(案)
 - ・整備予定地の位置
 - ・整備予定地におけるゾーニング(案)

【2】事業に係る質問及びアイデア

- 事業全般について
- 事業概要について
- 事業手法について
- 事業運営のアイデア・工夫
- その他

・業界紙等での周知・広報

◇現地説明会

・質疑回答

◇参加表明書及び回答様式提出

最終案へ反映

◇個別ヒアリング

◇サウンディング結果の公表

今後の展望

- H28年度
住民との合意形成
・本年度検討した導入施設について、中部丘陵地域3地区の代表者からなる協議懇談会による意見聴取
- H28年度
道の駅の整備に向けた調整
・山梨県道路管理者、NEXCO中日本との協議による広域防災型の道の駅としての役割及び事業分担の調整
- H29年度予定
公的不動産(廃校:旧平和中学校)の事業者募集
※H28年度の住民の合意形成後